



次なる
茨木へ。

平成30年は市制施行70周年

お気に入りの本を持ってでかけよう!

5.26 SAT.
9:30-16:00

BOOK TRAVEL

@ 元茨木川緑地

緑の中で読みたい本 **ブックリスト**



緑の中で読みたい本のほか、リゾート、サファリ、オリエンタル、シテイの4つのゾーンからイメージする本が満載!!

新しい本との出会いがつまっています。
出かける時、旅に出る時に、持って行きたい、新しいお気に入りの1冊が見つかるかも…。

発行: 茨木市立中央図書館



『緑の庭で寝ころんで』

宮下 奈都／著

北海道の自然豊かな環境の中で生活をする、作家家族の日常の小さな出来事をまとめたエッセイ集です。子供がテーマのお話もたくさんあり、のんびりとした気持ちで、気楽に読みすすめることができます。【ぺんちゃん】

『鳥と雲と薬草袋』

梨木 香歩／著

鳥や樹木に深い知識を持つ作者が日本中の地名の由来を尋ねながら綴ったエッセイ集。人と土地との関わりを探っていくことを積み重ね、一本の美しい樹のように「人の暮らし」が立ちあがる。何度もゆっくり味わいたい一冊。【S】

『長い旅の途上』

星野 道夫／著

行きたかったアラスカへの未だ^{くすぶ}燻る冒険心。

『世界を、こんなふうに見てごらん』

日高 敏隆／著

動物行動学者、日高先生の本です。「子どもの頃、虫たちがエサをどうやって運ぶか、どういう風に飛ぶのかをずっと見続けていた」「人間を多くの生き物のひとつとして見る」という話が印象的でした。難しいことは書いていないので、中学生くらいから読んでほしい本です。【chiki】

『IBLARD井上直久 -世界はもっとキレイに見える-』

井上 直久 監修 山野邊 友梨／編

ジブリの世界に茨木？
本市在住の作家による茨木をモチーフにしたイバラードワールドを紐解く。宮崎駿との対談など、ゆったり楽しめる一冊。



『風景スケッチモチーフ作例事典』

野村 重存／著

ふと目にした風景を描いてみたいと思っていたら、図書館で目にしました。初心者にもわかりやすい本です。【nann (ナン)】

『旅の絵本 1～4巻』

安野 光雅／著

どの巻も、多くの山や海、川などを経て中世の街並みに至った後、再び田舎の風景の中を去っていく絵本で、一切コメントやキャプションが無い。うららかな日差しの中で、老若男女どの世代も楽しめると思う。【下戸のよっちゃん@豊中】

『おなかの赤ちゃんとお話ししようよ』

葉 祥明／絵・文

葉祥明さんの絵がステキな本です。妊娠8ヶ月のお嫁ちゃんに、昨年プレゼントしました。息子から「ふたりで読みながら涙がこぼれてきた。」と……。もうすぐ会える赤ちゃんを想いながら……。緑の中で、ほっこりとした気持ちになれる本だと思います。【パステル】

『はげましてはげまされて』

竹浪 正造／著

93才のおじいちゃんが長年に渡って書いてるまんが絵日記。人生の先輩として「なるほど……」と感じさせられたり、自分と似ているのもあって、ちょっと笑ってしまったり……。気楽に読める本だと思います。【はるさん】

『世界の不思議な図書館』

アレックス・ジョンソン／著

アンデスの山中の学校にやってくるラバの図書館、公園にあるバス停のような図書館、1日限りの海岸の本棚。こんなところで本に出会えたら、きっとワクワクします。【さる】



『一生に一度は泊ってみたい奇想天外ホテル』

ディミトリス・コッタス／著

緑が多くてワクワクします。【山田マン】

『ぼくは、図書館がすき』

漆原 宏／著

図書館を利用している人々と職員及び図書館という空間を写真集にしたもの。誰もが笑顔で図書館という空間で存在し、図書館は地域に根ざした、なくてはならないものであることを思い知らされる。【I】

『老子 自由訳』

新井 満／著

老子の哲学がわかりやすく書かれ、緑の中で読むと頭に入りやすいと思います。【Y】

『山登りはじめました 2 いくぞ！屋久島編』

鈴木 ともこ／著

昨年夏の旅行、屋久島に行く前に読んだ1冊です。屋久島にある屋久杉に会いに行く途中がコミカルに描かれています。普段、体験できない大自然の魅力をこの本で体験してみてください。【笑え！犬！】

『人生はニヤンとかなる！』

水野 敬也／著

可愛い猫の写真に偉人たちの名言が添えられていて、人生を送っていくうえでのちょっとしたヒントがたくさん書かれています。おもわずクスリと笑ってしまう猫の写真をみているだけでも癒され、読み終わった後、ほっこりした前向きな気分になれます。【ころころ福袋】



『ミライの授業』

瀧本 哲史／著

新鮮なモノの見方・考え方をわかりやすく紹介した本書は、緑でリフレッシュした頭のうちにつけたと思います。

『山怪』

田中 康弘／著

「この前、山で太鼓の音を聞いたが、あれは多分狸だろう。」現代では絶滅の危機に瀕しているこの手のフレーズ。本作には昔話に語られたような、山の民話、それもちょっと怖い話、不思議な話がつまっています。【すけさん】

『夢を描き続ける力』

ディック・ブルーナ／著

作者からのミッフィーたちのシンプルな絵とことばを楽しんでください。【O】

『ぼくのともだち』

ジョンソン 祥子／著

愛らしい坊やと忠実なワンコとのほほえましい心暖まる写真をごたんのう下さい。【リスキチ】

『日本の美しい里の四季』

富田 文雄／著

・懐かしさを感じるような日本の美しい里山の風景に、その土地にまつわる言葉の解説を添えた風景写真集です。【図書館たろう】
・四季の美しい風景に土地にまつわる言葉が添えられ、その場にいるような気にさせてくれる本です。



『鏡面絶景』

MdN編集部／編

日本にしながら、世界中のすばらしい景色を見れる本。水面に映る様々な景色をたんのうしましょう。

『人生が変わる55のジャズ名盤入門』

鈴木 良雄／著

いろんなアルバムの解説を読んで、「次は、このアルバムを聴いてみたいなあ」とか考えながら時間を過ごすのはいかがでしょうか。【shige】

『親子でからだあそび』

佐藤 弘道／著

特別な道具が無くてもできる遊びがたくさん載っている。本を読むのに疲れた時、次に遊びに出掛ける時の参考にしてほしい。【H】

『花の日本語』

山下 景子／著

四季の草花や樹につけられた素敵な和名。そのひとつひとつに物語と想いがこめられているのがわかります。カタカナで知られる植物も特別な名前を知ることでもう一度会ってみたい存在になるように思います。【白川まり】

『色で見わけ五感で楽しむ野草図鑑』

高橋 修／著

今ここから見える花、何色ですか？色から野草を調べられます。ぜひこの本片手に調べてみて下さい。【春輝】

『世界一うつくしい植物園』

木谷 美咲／著

緑の中で、世界のきれいな緑を見てください。【としょかんたろう】



『つくる・育てる・飾る！超ミニ盆栽 改訂版』

岩井 輝紀／著

お家の中でもちっちゃな緑を楽しもう！
ちっちゃくてもとっても風流なヤツ。

『葉で見わかる樹木』

林 将之／著

そこに落ちている葉っぱ。さあ、手に取って探してみよう！この葉っぱは何ていう木かな？？葉っぱの特徴から探せますよ！！

『樹木たちの知られざる生活』

ペーター・ヴォールレーベン／著

森の国ドイツで大ヒットし、各国で翻訳されています。森や樹木に対する接し方が変わるような不思議な事実が書かれています。緑に囲まれて読めば更にリアルかも。【もりのくまっち】

『につぼんスズメしぐさ』

中野 さとる／写真

昔はよく見かけたスズメですが、最近はあまり見なくなりました。近づくとすぐに逃げてしましますが、この写真集を見ながらスズメの愛らしさ、奥ゆかしさを感じてみませんか。【花ではスイセンが割と好き】

『読むパンダ』

黒柳 徹子／撰

パンダにまつわるお話をパンダ好きで有名な黒柳徹子さんが選んでいます。作家やデザイナー、マンガ家、獣医師や元上野動物園園長などバラエティ豊かな文章が読めて、とても楽しいです。今話題のシャンシャンのこともっていますよ。【ふさ】



『先生、大型野獣がキャンパスに侵入しました！』

小林 朋道／著

動物たちの行動がおもしろい。【ななしのごんべい】

『おこりんぼ猫』

中山 祥代／著

誰にも媚びずに自由に見える猫たちですがプリプリと怒ることもあるようです。猫たちの素直な表情をたっぷりとのんびり味わえる写真集です。【しまじろう】

『季節を楽しむ和菓子12か月』

おもたせ菓子研究室／著

和菓子は一つの絵画の様だと思います。見ているだけでも心が豊かになります。【のりぴー】

『山菜・野草の食いしん坊図鑑』

松本 則行／編著

緑は癒しだけではない。緑は美味しいのだ！！おすすめレシピも載っています！

『アウトドアをもっと楽しむおしゃれソトごはん』

松尾 真里子／著

本格的なアウトドア料理は難しそう大変そうと気後れしてしまう人も多いのでは。この本では、レトルトや市販の食品を使ってもっと気軽に自然の中の食事を楽しむアイデアやレシピが紹介されています。【なん】

『サザエさん』

長谷川 町子／著



『週末、森で』

益田 ミリ／著

なにげない日常を切り取ったような、誰もが共感できるエピソードが多い本です。ゆったりした気持ちで読むことができます。【バタコさん】

『ドラえもん短歌』

柘野 浩一／撰

子どもから大人まで誰もが知っているドラえもん。その登場人物や秘密道具をテーマにした短歌たち。共感したり笑えたり、心があたたかくなったりと楽しめるはず。表紙も青空で、太陽の下、緑の中で読むのにぴったりだと思います。

『詩集 人はかつて樹だった』

長田 弘／著

「自由とは、どこかへ立ち去ることではない。考えぶかくここに生きることが、自由だ。樹のように空と土のあいだで。」自然の中で、ゆったりとじっくりと味わいたい詩集です。【ROKO】

『写訳 春と修羅』

宮沢 賢治／著

自然の中で読みたくなる宮沢賢治の詩集が写真と共に書かれている本です。【ハム次郎】

『西の魔女が死んだ』

梨木 香歩／著

・中学生の女の子が春から初夏へと移るひと月あまりを母方の祖母のもとで過ごしながら、魔女の手ほどきとしてジャムを習ったり、自然の中で様々な事を教わって成長していく物語なので、緑の中で読むと自分も物語の中に入ったような気持ちになる本です。【ブキニスト】

・魔女の血統である祖母（イギリス人）との山の中の暮らしをする少女。様々な木やハーブのある広い土地で、ジャム作りやシーツを洗って、ラベンダーの香りをつけたりしながら、精神をきたえていくお話で、緑の中で読む本としてはぴったりだと思います。【Y】

・祖母と孫のひと夏の日々を描いたファンタジーです。【海の子】



『青春の蹉跎』

石川 達三／著

青くさい若者の野望に満ちた、でも実感できるところがいい。緑のこもれびの中で、太陽の日ざしに目をふせながら読めばギャップがすごいと思う。

【S-LINE】

『南の島のティオ』

池澤 夏樹／著

南の島へのあこがれ～ホントに暮らしてみたいわ。

『麦ふみクーツェ』

いしい しんじ／著

「麦をふむことに、良いことも悪いこともない」ということばの意味がわかった時に、心があたたかくなります。【SU】

『卵の緒』

瀬尾 まいこ／著

読み終わったあと、涙をこらえることができませんでした。とてもとても好きな人がいる、その人と生きていけることがこんなにしあわせとは。景色が変わってしまうほどの強い想いを感じます。【ひるね】

『伊豆の踊り子, 温泉宿 他四篇 改版』

川端 康成／著

茨木市と言えば、川端さんなので……。【ちだ】

『High and dry(はつ恋)』

よしもと ばなな／著

春は恋、それもはつ恋がよく似合う。よしもとばななファンタジーのイラスト(カバーや文中にたくさん!!)で淡い気持ちになります。芸術の世界とピュアなふたり。【S】



『青が散る』

宮本 輝／著

本市にある追手門学院大学を舞台とした一冊。青春文学の輝きが新緑に映えるはず。

『狐笛のかなた』

上橋 菜穂子／著

小春丸が切望した外を満きつしながら。ボーイミーツガールの話です。アオハルだな。

『ラプラスの魔女』

東野 圭吾／著

以前の作品ですが、映画化されたので、たんに話題性で。【salparvus】

『十六歳の日記』

川端 康成／著

川端康成が茨木で暮らしていた時の日記なので、茨木の緑の中で読むには最適だと思います。

『遠くの声に耳を澄ませて』

宮下 奈都／著

宮下先生の短編集です。外に出かけてくなるような話が多い。

『ロードムービー』

辻村 深月／著

短篇が3作収録されています。代表作である「ロードムービー」は小学生のトシとワタルが自らを人質に東京への家出を決行する。子どもたちが2人で旅をする開放的な物語は緑の中で読むのにぴったりだが、その背景や子どもたちが抱くそれぞれの感情には胸を打たれる。【柴】



『植物図鑑』

有川 浩／著

・ラブコメの王道！！だけでなく、タイトルの通り「植物図鑑」です。「雑草という草はない」道端の草花へ目が向き、おいしそうに思えてしまう。植物への愛も、いっぱい詰まった作品です。【りんご】
・野草がたくさん出てきます。実物の野草を探しながら外で読むのも楽しいかも。【ばら】
・身近にある植物がたくさん登場します。元茨木川でも色々な植物に出会えるかも…【O】

『さいはての彼女』

原田 マハ／著

この本は敏腕若手女性社長の鈴木京香が失意の中で、雄大な北海道で出会ったライダーのなぎちゃんによって気持ちに変化していく物語で、緑の中で読み終わったら、気持ちがスカッとするおすすめの本です。自然の雄大さを感じながらスカッとしたい時読みたい本です。【たまっち】

『旅猫レポート』

有川 浩／著

猫のナナと飼い主サトルとの旅が、猫の視点からはじまり、物語が進んでいきます。旅の理由がわかるにつれ、せつなくなります。テンポのいい文章で読後は、心がホッとのお話です。【ソラ】

『冬虫夏草』

梨木 香歩／著

自然の中に溶け込むように人々の生活があり、主人公が山中で神様も天狗や河童の存在も身近に感じながら暮らす日常。ちょっと不思議だけれど穏やかな風情があり、世界観に引き込まれます。【K】

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』

七月 隆文／著

映画化もされた作品です。恋愛小説ですが時間が大きな鍵となってSFの要素もあります。【まるこ】



『羊と鋼の森』

宮下 奈都／著

- ・ピアノの調律に魅了された青年の物語で主人公が調律師として成長していく姿が描かれています。話の全体を通して最初から最後まで美しく優しい世界観に包まれました。映画化もされるので、映像で観る前にぜひ原作を読んでもみるのをお勧めします。【しんしん】
- ・本屋大賞ほか最近受賞している。タイトルに森がついている。【salparvus】

『蜜蜂と遠雷』

恩田 陸／著

音楽を感じられる本。音楽をこんな風に表現できるなんてすごい！読み始めたら、引き込まれて物語にどっぷりつかってしまった。読了後も心地よくなれる本。【ぐりとぐら】

『真実の10メートル手前』

米澤 穂信／著

車に乗っているときにラジオで紹介されてて、読みたいなと思いました。

『騎士団長殺し 第1部・第2部』

村上 春樹／著

この作品は神奈川県小田原市郊外を舞台にしている、緑豊かな自然環境の中で物語が展開します。緑の中でモーツァルトの「ドン・ジョバンニ」を聴きながら読めばより深く味わえると思います。【アマデウス2世】

『トム・ゴードンに恋した少女』

スティーヴン・キング／著

森で遭難してしまった少女のサバイバルストーリー。自然が常に優しいものではないこと、そしてそれよりもっと恐ろしいものを乗り越える少女。そんな彼女の心の支えとは……。本筋からクライマックスまで容易に想像できる展開ながら、分かっていても引き込んでくる文章をぜひ緑の中で読んでほしいです。【H】



『赤毛のアン』

モンゴメリ／著

10代の頃「赤毛のアン」シリーズが好きで読んでいました。プリンス・エドワード島の自然を思い浮かべながら緑の中で読みたい一冊です。【M】

『みずうみ 改版』

シュトルム／著

この本の森や緑のイメージは、5月の日本の緑とは違う冷涼なイメージです。【ほづみん】



『はじめてさんと歩くマルタ島地中海からの水彩鉛筆Lesson』

杉原 美由樹／著

地中海のマルタ島・・・きらめく光の中、青い海のむこうには赤い帽子の教会たち・・・みずみずしい色鉛筆の楽しいスケッチ散歩に出かけましょう。【しまじろう】

『ビアトリクス・ポターを訪ねるイギリス湖水地方の旅』

北野 佐久子／著

ピーターラビットの世界に旅に出よう！

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景』シリーズ

詩歩／著

- ・絶海の写真と共に、そこへの行き方や旅のスケジュールが書かれている。【ハム次郎】
- ・絶景の写真とそこまでの行き方がのっています。実際に行けなくても、見て想像するだけで楽しめる本です。【ふさ】



『大人の旅じたく』

柳沢 小実／著

旅を楽しむためのヒント満載！【白川まり】

『一生に一度は泊まりたい絶景ホテル』

アサヒカメラ編集部／編

不思議な絶景ホテルもあり、おもしろい。【としょかんたろう】

『5日間の休みで行けちゃう！楽園・南の島への旅』

リゾート観あふれる写真の数々と「5日間の休みがあれば行ける場所」というキャッチコピーに心ひかれる。【H】

『世界の絶景楽園&秘境』

写真がとても綺麗で行ってみたいと思う場所がたくさんあります。世界には本当に美しい景色がありますね。【ころころ福袋】

『たった3泊4日で行ける世界の絶景・楽園ガイド』

週末海外研究会／編

パラパラとページをめくっているだけで、そのリゾート地に行った気持ちになれます。きれいな写真にも癒されます。【パステル】

『ウユニ塩湖完全ガイド』

Only One Travel／著

ウユニ塩湖ってどこ？南米ボリビアにある世界一平らで遠近感のないところ。行ってみたいくなること間違いなし。



『新・\$100で泊まれる夢のアジアンリゾート』

増島 実／写真

美しいリゾートホテルの写真をみているだけで満足できます。【K】

『Aloha Hawaii Guide』

ワタナベ マキ／著

陽射しは強いけれど、湿度が低く、カラッとしていて過ごしやすい、一年中が今の日本の気候のようなハワイ！！心地良い風に吹かれながら、次のハワイ旅行の計画を立てませんか？行きたい所、食べたいモノ、きっと見つかるはず！！【ぐるんぱ】

『ハワイのホテルの使い方、遊び方』

山下 マヌー／著

旅慣れたマヌーさんが、宿泊しなくても楽しめるホテルの素敵なサービスを数々紹介してくれています。いい気分になれる一冊です。

『Hawaii Best of the Best』

小笠原 リサ／著

もはや、リピーターも多いハワイ！！暮らすようにハワイを楽しんでみませんか？マーケットでのお買い物、日本との違いを楽しみましょう！コンドミニアムは調理器具もそろっています。買ってきた食材でハワイっぽい簡単なお料理をしませんか？新しいハワイの楽しみ方にあなたも気付く…かも!?【ぐるんぱ】

『まるで海外のような日本の絶景』

絶景トラベル研究会／著

このシリーズ写真が良い【山田マン】

『世界の天空の城』

アフロ／著

天空を巡る旅に出よう。



『何もなくて豊かな島』

崎山 克彦／著

この本を読んで、絶対お金をためて島を買う！！と思っていました。まだ島は買えていませんが、きれいな海、きれいな島はやはりあこがれ。【さる】

『日本の猫宿』

小林 希／著

北は北海道から南は鹿児島県まで猫がおもてなしするオススメの宿が紹介されています。愛らしい猫たちの写真満載のフォトブック。猫好き必見の本です。【図書館たろう】

『いつか行きたいニッポンの絶景 永久保存版』

海や山もいいけど、日本の知られざる風景がまだまだあるのがわかる1冊。特に西表島のサキシマスオウノキは生命力を感じます！【笑え！犬！】

『365日日本一周絶景の旅』

TABIPPO／編

日本の絶景をベストシーズンに見に行こう！旅の計画の参考に！【ぐりとぐら】

『ローカル線で温泉ひとりたび』、『海外マラソンRunRun旅』、 『愛しのローカルごはん旅』

たかぎ なおこ／著

絵も楽しいが、写真付きなので、そちらでも楽しめる。ラクに読めて旅にフラッといきたくなる一冊。【はるさん】

『丹波・篠山の本』

実際に旅行に行くときに使いました。丹波・篠山はぼたん鍋だけではなく、イタリアンの店など、丹波・篠山を知るのにとっても役に立ちました。【I】



『東京ディズニーリゾート植物ガイド』

畑山 信也／著

隠れミッキーは植物にもいました。四季折々の花がどこのゾーンに咲いているかわかります。空想してみてください。【春輝】

『おうちでハワイアンごはん60』

藤沢 セリカ／著

家で簡単に作ることでできるハワイ料理のメニューが60種類載っています。ハワイのリゾートに行った気分が家庭料理で味わえます。【朝霧】

『ウミウシ 不思議ないきもの』

今本 淳／著

なかなか見ることができないウミウシがいっぱいです。【海の子】

『世界を旅するネコ』

平松 謙三／写真

著者の飼いネコの黒猫「ノロ」が著者と共に37ヵ国を旅した様子を写真やエピソードで紹介していて、自分も旅行した気分になれる楽しい本です。【ブキニスト】

『生きる』

谷川 俊太郎／(他)著

「生きる」をテーマにつなげて一つの詩にしたこの本は、リゾートでゆったりしている時に生きている喜びを感じ、生きて旅行にこれた事に感謝出来る本です。【たまっち】

『月と六ペンス』

W. S. モーム／著

南の島で読んだらサイコー！読みながら寝るけど。



『特捜部Q』

ユッシ・エズラ・オールスン／著

何もじゃまされない非日常の中で一気に読みたい本。主人公たちが個性的で、やりとりに笑わされて、ストーリーにハラハラさせられます。【ひるね】

『悲しみよこんにちは』

フランソワーズ・サガン／著

高校生の頃読んで、この本に出てくる気だるそうなフランスのバカンスをとってもかっこよく感じたのを思い出します。【おばあさん】

『遠い海から来たCOO』

景山 民夫／著

南太平洋のパフパフ島で洋助は卵からかえったばかりの奇妙な動物をみつける。それは絶滅したはずの首長竜の子供でした。美しい自然を舞台にした少年の成長記です。【玉】

『まぼろしハワイ』

よしもと ばなな／著

ハワイを舞台とした3つの作品を収録。華やかなイメージのあるハワイで、しっとりとした悲しい物語が展開します。しかし、やはり最後はこの賑やかなハワイで悲しみを乗り越えるという希望にも満ちた1冊です。【H】

『気まぐれ食堂』

有間 カオル／著

副題は神様がくれた休日。疲れた心を癒すべく辿り着いた島。地元の人々と交流しながら前向きに。旅行先をリゾートにするのは、癒しを求めてと選んで選びました。



『かもめ食堂』

群 ようこ／著

フィンランドのヘルシンキを舞台にした、日本人オーナーのサチエさんと、サチエさんを取りまく人たちの物語。映画にもなりましたが、原作は少し違った内容で楽しめます。【F】

『南の島のティオ』

池澤 夏樹／著

児童書もあります。大人も子どもも楽しめる一冊です。ゆったりゆったりやさしく読める一冊です。おだやかな気持ちになれますよ。【トモトモ】

『スプートニクの恋人』

村上 春樹／著

旅の話ではないが、物語に登場するイタリアやギリシャやフランスが、途轍もなくオシャレに響く。捉えどころのない登場人物にも惹かれる。【柴】

『風のマジム』

原田 マハ／著

南大東島を舞台に沖縄産のラム酒造りに挑戦していく様子が描かれています。南大東島の風を感じながら爽やかな気分を味わってください。【O】

『暗夜行路』

志賀 直哉／著

「小説の神様」の書く唯一の長編小説。日本人なら読んでみたい作品【ハム次郎】



『サウスバウンド』

奥田 英朗／著

沖縄の西表島を舞台にしたこの本を選びました。家族の物語ですが、奥田英朗ならではのユニークな人たちが登場し、おもしろいです。



『野生動物とサファリの魅力』

山形 豪／写真

- ・南アフリカの自然や野生動物、サファリの魅力を素敵な写真で紹介している本。【ぐりとぐら】
- ・迫力あるカラー写真ページが印象的。巻末には南アフリカ野生生物のガイドも載っている。

『獣医さんだけが知っている動物園のヒミツ 人気者のホンネ』

犬養 ヒロ／画

本来野生の動物だったのに、動物園で飼育されることで生まれる悲喜こもごも。【Y】

『バッタを倒しにアフリカへ』

前野 ウルド浩太郎／著

- ・バッタ博士は単身アフリカのモーリタニアに乗り込み、研究対象であるバッタと熱き戦いを繰り広げるノンフィクションです。【M】
- ・雄大な大地で奮闘する日本人の姿が楽しい本です。

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ』

川上 和人／著

おもしろいです。【ほづみん】



『都市と自然』

安藤 忠雄／著

安藤さんは茨木にもちょっとゆかりがあるし、よいかと。【山田マン】

『ふわはむ。』

tommo＊／著

パールホワイトの「ぼぼちゃん」の可愛らしい一生を撮った写真集。【ハム次郎】

『ネコライオン』

岩合 光昭／著

・「ネコは小さなライオンだ。ライオンは大きなネコだ」と岩合光昭さんが言うようにネコながらサバンナで暮らすライオンのように見え、サバンナのライオンながら都市に暮らすネコのように思える1冊です。【笑え！犬！】
・ライオンもネコ科のいきものです。比べてみると、意外とそっくり……。【SU】

『アフリカの日々』

アイザック・ディナーセン／著

アフリカで農場を経営していく女性が、大自然の中で生きる物語。自伝的で20世紀初期、北欧貴族がアフリカ民族との交流や野生動物等に囲まれて生活する。

『パイの物語』

ヤン・マーテル／著

インドの少年パイは、カナダに渡る途中に遭難した。そのボートの中にはベンガルトラをはじめとする他の動物も乗っていて…。227日の奇跡の物語。【F】

『おばちゃまはサファリ・スパイ』

ドロシー・ギルマン／著

おしゃべりで明るいスパイなおばあちゃまが楽しい一冊。【K】



『ジャングル・ブック』

R・キップリング／著

ジャングルで動物たちと暮らす少年の物語。映画やアニメにもなった名作です。【H】

『わしらは怪しい探険隊』

椎名 誠／著

サファリといっても日本の離島で天幕生活にのぞむ男たちの話で、狩猟などはしません。野外にいるワクワクした気持ちにはなれる本なのです。

『世にも奇妙なマラソン大会』

高野 秀行／著

酔った勢いでサハラマラソンに参加したサハラマラソンのドタバタフィクション集です。【S】

『どーしてこんなにうまいんだあ！』

椎名 誠／著

サファリというかアウトドアな感じがします。大人が楽しく遊んでいて、料理もおいしそうです。

『ドナウの旅人 上・下』

宮本 輝／著

ドナウ川沿いの街や自然、風景も楽しめる作品です。【S】

『パラダイス・クローズド』

汀 くるもの／著

美しすぎる双子が死神と探偵としてナゾに立ち向かうストーリーの中で自宅の水槽の魚のうんちくがすごくて、そのキャラと共に笑えます。【ひるね】



『光車よ、まわれ！』

天沢 退二郎／著

ある朝、学校に登校した一郎は、教室のクラスメイトの様子がなんだかおかしいことに気付く。奇怪な事件が次々と起こり。やがて不思議な力を宿す「光車」をさがすことに。一郎たちが町中を駆けまわります。【玉】

『限りなく透明に近いブルー 新装版』

村上 龍／著

村上龍では一番好き。【S-LINE】

『七人の敵がいる』

加納 朋子／著

PTA、保護者会、自治会・・・ママたちの敵が天こもり！陽子さんがズバズバ闘っていくので、読みおわってスッキリします。私にはできない爽快さですが、子育てあるあるです。【chiki】

『楽園のカンヴァス』

原田 マハ／著

ルソーの名画「夢」。緑深いジャングルの中の女性と野生動物の画。アートミステリを感動と共に。【S】

『いつも彼らはどこかに』

小川 洋子／著

サファリは遠い。サファリに住む動物も遠い。でも思いがけない所に隠れている動物たちとの絆を、魂の痕跡のように、この物語は見つけていく。幻想の動物たちと出会う物語。【S】



『深夜特急 第1便 黄金宮殿』

沢木 耕太郎／著

自分が旅していると思えるほどの感じがする。【S-LINE】



『深夜特急 2』

沢木 耕太郎／著

アジアへの心理的距離が近づきました。【Y】

『「トルコで私も考えた」シリーズ』

高橋 由佳利／著

このシリーズ大変おもしろい。【山田マン】

『シルクロードおもしろ商人スクラップ』

浜井 幸子／著

いながらにしてシルクロードのディープなバザールへ。様々な商売をする人たちへの肉声のインタビューですが、写真やイラストを見るだけでも楽しい。【五月】

『くるくるバリ島ウブド！』

なかがわ みどり／著

イラストでわかりやすい。【としょかんたろう】

『インドなんて二度と行くか！ボケ！！』

さくら 剛／著

自称引きこもりの作者がいきなりインドに行った旅行記。かなり笑いました。【S】

『夢をかなえるゾウ』

水野 敬也／著

・家に突然住みついたのは、ゾウの姿をした関西弁の変な神様・ガネーシャ。うそかまことか、その神様を信じて行動するといろいろうまくいきてして……。【F】
・インドの神様ガネーシャがでできます。【ROKO】



『たもんのインドだもん』

矢萩 多聞／著

インドの色々がぎゅっとなってます。

『となりのイスラム』

内藤 正典／著

オリエント＝東洋といえば、イスラム教です。最近何かと話題になるこの宗教についてもっと理解しておく必要があります。【アマデウス2世】

『世界のへんな肉』

白石 あづさ／著

世界中の珍しい動物の肉料理、魚料理をとりあげたエッセー本。驚きの食材、え！？本当に食べちゃうの！？・・・そうなんです。【白川まり】

『日本の最も美しい町』

美しい町研究会／著

行った事がなかったり、知らなかったり、まだまだ奥深い日本を一緒に見てみましょう。

『アジアン丼本』

高谷 亜由／著

旅行先で楽しみなのが食事！色んな国のアジア丼で旅行気分になって、次の旅行の計画しませんか？【笑え！犬！】

『神話・伝説とおとぎ話』

海野 弘／著

ディープでドラマティックな中世のゴシックホラーや世紀末ファンタジーまで。カラー画像あり、説明ありなので神話本がよくわかります。【トモトモ】



『ブッダ 第1巻～第8巻』

手塚 治虫／著

ブッダも昔は一人の苦悩する人間だった。でも悟りを開いたあとのブッダの言葉は、現代に生きる人たちにも役立つものではないでしょうか？【I】

『天は赤い河のほとり ①～②7』

篠原 千絵／著

学生の時、世界史の授業でさらっと流された部分を知ることができる漫画。【N】

『アジアのかわいい刺繍』

誠文堂新光社／編

鮮やかな色彩の刺繍の数々を通して、様々な文化に触れることができる。【H】

『翻訳できない世界のことば』

エラ・フランシス・サンダース／著

挿絵もとても素敵でどこことなくオリエンタルな雰囲気がいい。日本語で紹介されてるのは「木漏れ日」。緑の中の読書とつながる部分があると思う。

『千夜一夜物語 ガラン版』

ガラン／著

アラビアンナイト。幼少期に読みましたが、いろんなお話があり少しミステリアスな感じがします。【ご】

『図説 | アラビアンナイト 新装版』

西尾 哲夫／著

「アラビアンナイト：千夜一夜物語」はどのような本か、あらすじや背景、アラブ文化など美しい挿絵で紹介している本。【ぐりとぐら】



『メソポタミア殺人事件』

アガサ・クリスティ／著

クリスティの名作。アッシリア遺跡で事件がおこった！！【ななしのごんべい】

『オリエント急行の殺人』

アガサ・クリスティ／著

名探偵ポアロがオリエント急行に乗り、ヨーロッパへ帰ろうとする車内で起こった殺人事件を描いた長編推理小説です。【M】

『夜の語り部』

ラフィク・シャミ／著

千年の都、シリアのダマスカスに住むサリムじいさんはお話の名手。次々に語られる物語は風刺とユーモア、諧謔（かいぎやく）に満ちている。異文化に触れる楽しみと人間の深みを知る一冊。【S】

『^{うぶめ}姑獲鳥の夏』

京極 夏彦／著

梅雨明けの夏、小説家の関口はとある怪奇的な噂を耳にし、友人である中禅寺という人物を訪ねる。数々の事件を色々な人物を巻き込みながら発展していくミステリーです。【霜月】

『占星術殺人事件 改訂完全版』

島田 荘司／著

日本のあちこちを飛び回る探偵と共に旅をし、最後、トランプの札がすべてパタパタとひっくり返るような快感、トリックが忘れられないです。【ひるね】



『王都炎上, 王子二人』

田中 芳樹／著

異国の香りただよう英雄物語。ようやく完結したので、ぜひ一気に読みを！
【K】

『村田エフェンディ滞土録』

梨木 香歩／著

現実と幻想と中東の熱気が混然一体となって、夢のような時間を作る。トルコ行きたいなあと思わせる。【Y】

『沙門空海唐の国にて鬼と宴す 巻ノ1～巻ノ4』

夢枕 獏／著

超大作ですが、とても読みやすいです。長安の時代の背景や密教、歴史的な事件などわかりやすく、すらすら読めます。【フレンチブル】

『にぎやかな天地 上・下』

宮本 輝／著

宮本ワールドを楽しんで下さい。【O】



『ぼくらの近代建築デラックス！』

万城目 学／著

都会の街並みにとけ込む近代建築。歴史を知る楽しさを味わえるとともに、実際現地を訪れたくなります。

『一度は行きたい世界&日本の絶景レストラン』

たまには自分にごほうび！！いつか、行ってみたいなあ〜とあこがれます。【パステル】



『美しい色の町なみ』

淡野 明彦／著

- ・世界の様々な色の美しい建物や街並みがたくさん詰まっています。眺めるだけでも何度も感動・感心してしまう1冊です。
- ・日本ではあまり見ることのない色とりどりの町。見ているだけで楽しくなる1冊です。

『ニューヨークのとけない魔法』

岡田 光世／著

意外と人間味あふれるニューヨークの人たちのエピソードに「ニューヨークもいいな」と思える1冊【ほづみん】

『世界のドア』

ベルンハルト M. シュミット／著

さまざまな国のドアを180種類以上集めた写真集。きれいなドア・珍しいドアが沢山見られる楽しい一冊。【図書館たろう】

『世界の美しい図書館』

他の国の図書館って、どんなのがあるだろう。【としょかんたろう】

『一度見たら忘れない奇跡の建物』

MdN編集部／編

旅をする時は観光地ばかりではなく、すごい建物が世界中にあるぞ！と言わんばかりの建物がいっぱい載ってます！【笑え！犬！】

『日本の最も美しい図書館』

立野井 一恵／著

行ってみたいくなります。【えだまめ】



『世界の露店』

アフロ／(他)写真

日本ではあまりみないユニークな陳列、色づかいがとても美しいです。
【椿】

『喫茶とインテリアwest』

関西を拠点に活動するビル好き集団BMC（ビルマニアカフェ）による本。レトロな喫茶店のインテリアが紹介されています。【ふ】

『パリ、この愛しい人たち』

雨宮 塔子／著

おしゃれな街パリ。上流階級のマダムなどを連想されますが……。異国での子育て奮闘。そしてその中で感じた涙……。ほほえみ……。素晴らしい人たちとの出会いをママ目線で描かれています。【まゆぴー】

『461個の弁当は、親父と息子の男の約束。』

渡辺 俊美／著

弁当本は楽しい！！最後の息子さんが「お父さんへ」と書かれているページが大好きです。【はるさん】

『北摂グルメ』

北摂の人気のお店、話題のお店、新しいお店など美味しいお店の紹介本。お気に入りのお店と出会えるかも。【ぐりとぐら】

『自己流園芸ベランダ派』

いとう せいこう／著

都会でも緑に囲まれて生活したい！【えだまめ】



『デスクと気持ちの片づけで見違える、わたしの仕事時間』

Emi／著

お休みの日にパラパラっと見て読むだけで仕事に活かせるアイデアが見つかりそうなそんなビジネス書です。【I】

『セブン-イレブンは日本をどう変えたのか』

吉岡 秀子／著

都市での生活で欠かせない「コンビニ」から「食」や「家族」について書かれているのが、分かりやすく面白い。【H】

『パリのおばあさんの物語』

スージー・モルゲンステルヌ／著

読み終わったあと心がホッと暖かくなる本です。【リスクチ】

『そして生活はつづく』

星野 源／著

歌手で俳優でマルチな活躍をしている星野源の初エッセイ集。日常の生活の中で共感できたり、できなかったり、とにかく読んでいて思わずクスッと笑えます。【しんしん】

『大崎梢リクエスト！本屋さんのアンソロジー』

大崎 梢／(他)著

本屋さんを舞台にしたショートストーリー【ななしのごんべい】

『きらきらひかる』

江國 香織／著

いろんなタイプの人が出て、生活しているのだなと感じます。【ご】



『すべてがFになる』

森 博嗣／著

こんなに頭のいい人がいるのか……。作者の森先生は私のような平民と比べものにならない脳みそをお持ち。このシリーズ他のものすべてが絡んで壮大なストーリーになっています。【ひるね】

『図書館革命』

有川 浩／著

元号が「正化」の時代。図書館の自由とは。映画化もされた1冊です。【春輝】

『退出ゲーム』

初野 晴／著

高校で弱小吹奏楽部に入部したハルとチカ。青春ものだけどミステリー、そしてコミカル。時には涙をさそうような話も。読んだら本のタイトルの意味もわかります！

『マスカレード・ホテル』

東野 圭吾／著

一流シティホテルが舞台の東野圭吾作品。気持ち良くだまされて、読み終えてスッキリしてください！ 【りんご】

『幻坂』

有栖川 有栖／著

天王寺七坂にまつわる物語を通して大阪の街の一面を知れました。【Y】

『さらば、荒野』

北方 謙三／著

虚飾の街を舞台に男たちが争う大人のハードボイルド【K】



『デュララ！！』

成田 良悟／著

東京・池袋を舞台にした群像劇。日常が非日常へと変わってゆく。【ハム次郎】

『ティファニーで朝食を』

トルーマン・カポーティ／著

トルーマン・カポーティの映画にもなった有名な短篇だが、これほど心の中の小さく柔らかい場所に届く物語は少ない。NYとイノセントな魂という組み合わせが紡ぎ出す現代のおとぎ話。【S】

『「罪と罰」を読まない』

岸本 佐知子／(他)著

著名な作家たちによる、本を読まずにどれだけお話を想像できるかを試すところみ。その後、本編を読めば二度名作を楽しめます。【F】

『ランチのアッコちゃん』

柚木 麻子／著

仕事で行き詰まった時、読みたい本です。主人公が1週間ランチをとっかえっこしてもらった中で気づいていく（ビジネスメンタル）をコミカルにえがいています。【たまっち】

『阪急電車』

有川 浩／著

- ・阪急沿線の聞き慣れた駅名が物語の中に登場し、様々な人間模様が車内で繰り広げられる。テンポの良いストーリー展開に清々しさを感じます。【ぺんちゃん】
- ・今津線ですが、なじみ深い阪急電車の駅々で起こる小さな事件。いつもの駅が違ってみえるかもしれません。【まるこ】
- ・読み終えた後、電車に乗って阪急沿線を回ってみたいくなります。【O】